

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第90号(2014. 9. 1)
事務局川西地区自主防災会

三豊市の取組みを横山市長に伺いました！

今月は、首長さんシリーズの三番バッターで三豊市の横山市長さんに、「防災」や「まちづくり」の取組みについてお話しを伺いました。

【三豊市の概要】

平成 18 年 1 月 1 日、旧三豊郡の高瀬町・山本町・三野町・豊中町・詫間町・仁尾町・財田町の 7 つの町が合併し誕生。
県西部に位置し、徳島県、海をはさんで岡山県と広島県に接する。
人口 66,319 人 世帯数 23,334 世帯 (H26.8.1 現在推計)
面積 222.66k m²
特産品 みかん、お茶、マーガレットなど



【横山忠始市長プロフィール】

昭和 23 年生まれ
昭和 47 年 4 月衆議院議員大平正芳秘書
昭和 53 年 12 月大平正芳内閣総理大臣秘書
昭和 58 年 4 月香川県議会議員
平成 5 年詫間町長就任 (連続 4 期)
平成 18 年 2 月三豊市長就任(現在)
趣味 読書、史跡探訪。



Q. 政治の道に入るキッカケは何でしたか

A. これは大平先生の秘書になった事がキッカケですかね。政治の道を志したのは中でも慰霊祭が大きいですね。戦争というものをもの凄く考えました。そして、政治の究極の役割は「戦争の無い社会を作る事」だと思いました。そのためには、政治家は命を張らなければいけないと。この前の戦争で 320 万人が亡くなった。東日本大震災も大変な震災だったのですが、それとは桁が 2 つ程違う悲惨な事が 70 年前にあった訳です。まず戦争が起きないようにするのが一番大事だと、未だに強く思っています。

Q. 大平元総理の秘書になったキッカケは

A. 大学 4 年の時に就職活動に納得がいかず、祖父に相談したことがありました。その時、祖父から政治大学というものがあることを聞き、当時、祖父が詫間町の大平先生の後援会支部長しておりました関係で、祖父と二人で観音寺市にある大平事務所へ相談に行きました。その時は秘書のことは頭に無く、政治大学のことだけを聞こうと事務所に伺いました。

ところが 1 週間位の研修会のようなものがあつただ



けで、政治大学というものは無くそのまま家に帰りました。

それからしばらく経った2月頃、大平事務所から電話を頂き、秘書を一人とってもいいから来ないかという話でした。その時既に就職する会社が決まっていたのですが、それよりもこちらの方が面白そうだと思います、一も二も無くお願いしました。

Q. お好きな言葉

A. 祖父に五つの言葉をもらったことがあります、なかでも「すねるな」、「何事にも口説を言うな」この二つはいつも心の中にあります。

自分はこういった仕事をしているので、よく迷ってしまいます。禅の言葉で『海月澄んで影無し、遊魚独り自ら迷う』という言葉があります。夜の海に澄んだ月が出て、明るく照らしている。しかし、海の中では一匹の魚が迷っている。迷う必要が無いのに独りで勝手に迷っているという意味です。この状態が自分にもよくありまして、自分の中で迷って悩んで、よくよく考えると自分独りが勝手に悩んでいる。これは何時も気を付けています。

あと五つの言葉を自分が大平先生の元を離れる時にもらおうと思っていたのですが、大平先生が急逝したので頂ける機会がありませんでした。



Q. 尊敬する人

A. 大平先生は別として、会津出身の国会議員伊東正義先生、元外務大臣、官房長官をしていたこの人です。この方は凄い人だと思います。後にも先にもこの方のような政治家はいないと思います。あの筋の通し方、生き方、ちょっと出来ない、会津そのものですね。ものすごく大きな愛があり魅力満載でした。

政界にいて魅力的な人を沢山見ましたが、後藤田正晴先生も魅力的でしたけれども、伊東先生はやっぱりどこまでもついて行きたくなる人でした。

Q. 大平元総理大臣との思い出

A. 僕はまだ大平先生を語れる程の立場ではないのですが、物静かですが、反面、陽気な方でした。それと冗談が好きで、車座の話の名人でした。夜の自宅で、車座になって新聞記者さんとの記者懇談会なんかでは、僕は何時も隅の方でお茶係みたいなものをしながら、聞かせて頂きましたが、凄く話が盛り上がって楽しい。内容は僕らがついていけないような世界の話もあつたんですけど楽しかったですね。座談の名手だったと思います。

基本的に陽気で、人物そのものは哲学者ですかね。政治の在り方、人間の在り方から考える事が

ある。牧師さんとの対談で聞いた事があるのですが、キリスト教を語りだすと牧師さんが舌を巻く程造形が深かったです。本も沢山読まれて読書家でした。凄く責任感が強かったですから、日本の将来に対しても真剣でした。大蔵大臣で赤字国債を発行した時は、それこそ近寄り難い雰囲気でした。「この方向に走り始めたらいかんのだ！」と言って。その後大平先生が総理大臣になって、借金でなく応分の負担を国民にお願いしなければと消費税を創設しようとしたんですが、なかなか受け入れられなくて。結局あのような政争に巻き込まれ亡くなりました。その後、時代は先生が心配していた通りの方向に行っている。日中国交回復と赤字国債発行の二つ場面は忘れられません。私は大平先生の自宅で居ましたからよく見せて頂きましたけれど、物凄い雰囲気でした。あれだけ責任感の強い政治と言うのが、今はたして行われているのか？という想いがあります。



Q. まちづくりについて7町の合併で三豊市が誕生されました。それぞれ地域文化も違うのが一緒になって本当に大変な思いをされていると思いますが、今色々な所でお世話になっております。各地区のまちづくり推進隊が発足されておりますが、これはそれぞれの特徴があって詫間は詫間の推進隊、仁尾は仁尾の推進隊の側面から見せて頂いておりますが、これを作る時の想いを少しお聞かせ下さい。

A. 三豊市が主張しているのが、「公共サービス＝行政サービス」の時代では無くなったということ。高度成長期は公共サービスと言えばすべて行政サービスが担うというのが市民の皆様一致した考えだったと思います。

今や民間企業も公共サービスに参加出来る能力を持っていますし、NPOといった組織もあります。市民団体も公共サービスを生きがいとして参画したいという声もあります。公共サービスに民間も市民団体も市民の皆様もどんどん入って来て、一番効率のいい所がやったらいいじゃないですかという考え方を原点に持っています。そういう時代の中で行財政改革を進めながら、もう一方で地域を活性化する。一件相反するものを一緒にやっしまおうと言うのが「まちづくり推進隊」なんです。

平成24年度の予算ベースから言えば、支所活動費を2億円削減しました。支所活動費を縮小して得た2億円のうち、1億円は行革効果でおさめて、残り1億円を地域活性化のために支出する。その1億円をどうするのかということでまちづくり推進隊に分配する事にしました。

まちづくり推進隊にお願いしているのは、いわゆる法律に規定されていない業務。法律に規定されている業務は市が行う行政サービスとして残し、今までは市が行っていて法律に規定されていないもののうち、市民団体がやった方がコストも安く効率も良いというものは、まちづくり推進隊に委譲しました。市が行っていたものをまちづくり推進隊にお願いする委譲業務が半分、残りの半分はその推進隊で好きな事ができる自主事業。仁尾は仁尾でやりたいことある、詫間は詫間である、そこを自分達でやっていただく。でも交付金としては一定額以上は出ません。使えなかった場合は返していただく。そこは決算の関係の中できちんとやります。と言う事でまちづくり推進隊に願

いています。委譲業務と自主事業の二本立てが推進隊の役割です。

この様なやり方で行革と地域の活性化の二つを目的に推進隊を立ち上げて頂きました。平成 25 年度で合併前の 7 町すべてにまちづくり推進隊が出来ました。

Q. 地域分権への取組と将来的イメージなど踏まえてお話し下さい。

A. 僕は地域内分権として「内」を入れております。地域の内に分権をしていく。申しあげましたように今までは「公共サービス＝行政サービス」でしたから、行政が抱えすぎているところがあります。職員がどんどん減り、今までやっていた公共サービスが出来なくなっています。でもそのサービスはあった方がいいよねと言うのもあると思いますので、そういう時はまちづくり推進隊が地域内分権として、地域内であった方がいいと思うものをやって頂く。行政サービスとしてそれはやりませんよ、と言う事をお願いをしています。

はじめは公民館を拡大して、拡大解釈の拡大公民館的なものが出来ないかと考えました。ところが公民館や社協は様々な法律に縛られていますので、利益を出すとか稼ぐとかその辺りの部分が非常にやりにくい。基本的に公民館とか社協は、教育サービスとか福祉サービスで、無料だという考え方が原点にあります。これを利用者負担の中で提供する考え方が出来ないのか。ある意味では逆に利益を生む・稼ぐ考えもあっていいのではないかとすることで、お金の部分にはフリーハンドでいたいなと思いました。これがまちづくり推進隊を設立した一つの理由です。祭りに屋台出して金儲けしても良いではないか。うどんを出して、バザーで利益を出しても良いじゃないのと。どんどん稼いでそれを自己資金にして、公共サービスの為に活動して行くと言う事はあっていいのではないかと。そのあたりをフリーハンドでやる為にまちづくり推進隊を置きました。

公民館や社協と一部活動が重複するところがあるのですが、それはお互いが話し合いをしながら調整してもらおうようにしています。社協と公民館とは協力関係が無いと駄目だと思います。対立関係になったらいけません。この辺りは充分推進隊にお願いしていますので、理解して頂いていると思っています。



Q. 南海トラフによる地震は絶対に避けられない、それに対する市の取組をお話し下さい。

A. 公助、共助、自助がありまして、最後の最後が公助だと思います。しかし、阪神淡路大震災、東日本大震災でも言われているように、自助こそ一番大事です。自分自身、それから地域の自主防災組織、ここが一番大切な第一堤防だと思います。

最後の公助の部分については、市役所の隣に危機管理センターを建設します。ここで危機管理課も新設し、危機管理について考え検討する行政部署を作ります。



さらに警察、消防、医師会、消防団、自主防災組織、これらの連携は凄く大事になります。特に公助からすると警察と消防とは行政と一体にならなければならない、重要な部署だと思います。

今、国道11号線沿いにある広域消防の建物が、建て直して市役所の近くの図書館の横に建設される事になりました。市役所と極めて近い所に出来ます。警察も出来るだけ市役所と遠くない所に、新しく作る場合はやってもらって、消防、警察、行政それから医師会、これらの情報が絶えず統一出来るように、情報と指揮が一元化できるような体制作りを整えて行きたいと今準備をしている所です。



自主防災組織の組織率は58%です。これを100%に近づけて行くのが目標です。自主防災組織の啓発活動は今後とも続けていくし、自主防災活動をやっている所の事例を広報誌等で紹介しながら市民に広く啓発して行ければと思っています。それで100%を目指したいと思います。それと、組織があっても活動とか訓練がなければ意味がないと思うので、先進事例として三豊市の中でも三野町や豊中町が結構熱心なので、その成功事例を紹介

して、啓発活動をして行きたいと思っています。

情報伝達に関しては全世帯2万1千戸を対象にデジタル防災行政無線を設置しています。いざと言う時にはこれが情報を提供してくれると思っています。備蓄に関しては今後さらに危機管理センターに危機管理課が出来れば詳細に、きちんと整理したいと思っています。

横山市長さん、お忙しい中貴重なお話を一杯聞かせて頂きまして、誠にありがとうございました。私共もこれからも市民レベルでの公共サービスに係ってまいりますので宜しくお願い致します。

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

1. 9月の行事予定

- ・ 9月 6日（土） 香川県人権啓発センターにおいて、防災講演会
- ・ 9月12日（金） 地元川西町長寿会＜長寿学級＞にて防災講演
- ・ 9月13日（土） 南淡路市より視察研修（30名）
- ・ 9月14日（日） 高松市国分寺町北谷団地自治会防災講演
＜フォローアップ事業＞
- ・ 9月18日（木） 高松市国分寺町老人クラブ防災講演会
（北コミュニティセンター）
- ・ 9月19日（金）～ 21日（日） 月尾嘉男 自然塾全国大会（山形県鶴岡市）
- ・ 9月25日（木） フジグラン丸亀店防災訓練＜営業時間中実施＞
- ・ 9月28日（日） 三豊市高瀬町麻地区防災講演会＜フォローアップ事業＞
- ・ 9月30日（火） 三豊市高瀬地区防災講演（自治会長対象）＜フォローアップ事業＞

2. 三豊市長横山様のインタビューを終えて

お気軽に笑顔でお答えいただきましたが、時まさに日本の国を動かしていた政界の中核部の内容でございまして、重みを痛切に感じ入りました。

「政治」とは、何をなすべきかをしっかりと伺いし、勉強をさせていただきましたが、現中央政界の言動には幻滅を感じ取っているしだいです。

横山市長どうもありがとうございました。＜岩崎＞

編集後記

今月の防災減災の輪は、三豊市長横山様のインタビューを掲載させていただきました。ありがとうございました。